

I. 授業の概要

この科目は教育学部2年生向けの専門教育科目である。講義では身近な地域から世界の地域までを具体的な事例としながら基礎的な知識を修得させ、地域的特色や地域的差異を理解する地理学的見方を身につけることを目的とした。なお、この科目は課程認定科目である。

授業の到達目標として、①地理学（地誌学も含む）の基本概念を理解する。②地図とくに地形図の基礎知識を習得し、正しく読図できる。③それぞれの地域の特性を理解し、地域における人文事象と自然環境や歴史・社会・経済環境などとの関係を説明できる、の3つを掲げた。

関連するディプロマ・ポリシー(DP)は教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している(知識・理解)、教育活動に取り組むため、高い技能と豊かな表現力を身につけている(技能・表現)、である。また、授業の内容と計画は次の通りであった。第1回ガイダンス Introduction、第2回地理学と地理教育 Geography and Geographic Education、第3回地理学と地形図 Topographic Maps (General Reference Maps) in Geography、第4回地理学と主題図 Thematic Maps in Geography、第5回フィールドワークの意義と方法 Pre-fieldwork, the Significance and Methods of Fieldwork、第6回フィールドワーク Fieldwork in Matsuyama、第7回主題図の作成と読解 Creating and Interpreting Thematic Maps、第8回フィールドワークの報告会 Post-Fieldwork (Presentation on the Fieldwork)、第9回地誌学の基礎 Basics of Regional Geography、第10回世界の諸地域 Regions of the World、第11回モンスーン地域の地理環境と生活 Geographic Environment and Living in Monsoon Areas、第12回乾燥地域の地理環境と生活 Geographic Environment and Living in Arid Regions、第13回低地の地理環境と生活 Geographic Environment and Living in

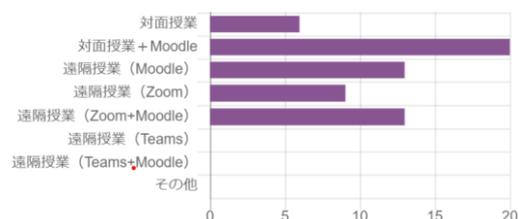
Lowlands、第14回高地の地理環境と生活 Geographic Environment and Living in Highlands、第15回まとめ及び期末試験 Semester Review and Final Exam。

II. 授業評価の方法と結果

2021年2月5日(金)に授業評価に関するアンケート調査を行なった。履修者32名のうちに29名から回答を得た。新型コロナウイルス感染予防をしながら対面授業と遠隔授業を不規則的に展開した。

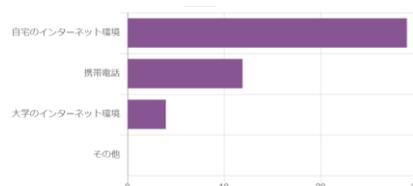
1. 新型コロナ禍のなか、望ましい授業方法を教えてください(複数選択可)。

学生にとって最も望ましい形の授業は「対面授業+Moodle」の組み合わせであった。これは新型コロナウイルス感染拡大前の授業の形であった。遠隔授業ならMoodleのみか、Zoom+Moodleを選んだのはそれぞれ13名であった(下図)。



2. 遠隔授業の場合は、どんなネット環境を持っていますか(複数選択可)。

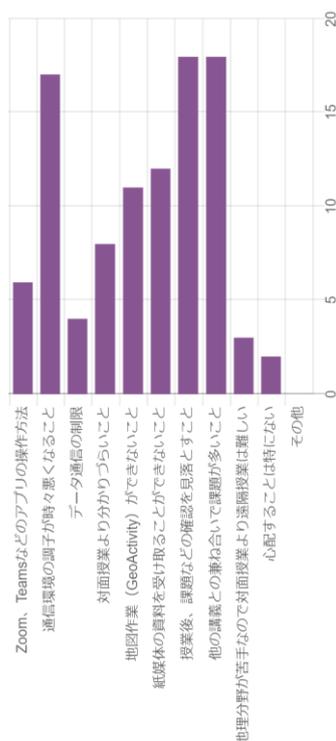
殆どの学生は自宅のインターネット環境を利用している。携帯電話を使う学生は12名いた(下図)。



3. 遠隔授業で最も心配していたことは何ですか(複数選択可)。

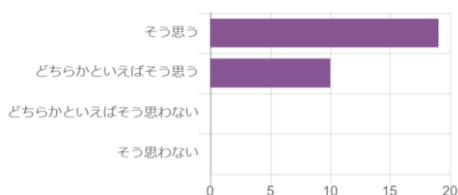
この問いについて、「授業後、課題などの確認を見落とすこと」、「他の講義との兼ね合いで課題が多いこと」が最も多く18名がいた。対面授業と違い、遠隔授業の場合は課外学習時間が長く学生の負担が大きいことが分かった。また、17名の学生が「通信環境の調子が時々悪くなること」と答えた。万が一授業内容を受信できない場合はどうフォローするの

かは課題である。その他にプリンターを持っていないため、紙媒体の資料を受け取りたい、授業内容を深めるための「地図作業 (GeoActivity) ができないこと」(下図) などが今後の課題である。



4. 対面授業で実施した GeoActivity (作図読図など) について、授業内容の理解に役に立ちましたか。

前述の間3にも関連して、内容の理解を深めるための読図・作図活動は重要である(下図)。遠隔授業の時はどういった工夫が必要かは検討したい。



Ⅲ. 授業評価では、記述内容として、次のことを聞いた。なお、学生のコメントはそのまま載せてある。

1. コロナ禍のため、フィールドワークを実施できなかった。これについて代表的なコメントは次の通りであった。

- ・この授業で楽しみにしていたことの1つなので、とても残念だった。
- ・実際に自分で調査をするという活動の中で地理学というものの楽しさを実感できるのではないかと考えていたためがっかりすること

ではあった。

・やはりフィールドワークはやりたかったというのが私の意見です。できなかった分。先生が授業内で説明してくださったり、違う方法を考えてくださったので、ありがたかったです。ただ、できるなら実際にやりたかったなというのが率直な意見になります。

・地理の醍醐味でもあると思っていましたし、私自身歩いて街並みを観察するのが好きなので、課題を提出するために家に籠もるより、フィールドワークをやりたかった気持ちでいっぱいです。

・実際にフィールドワークを行うことが出来なかったのは非常に残念でした。実際にその土地を歩き肌で地理学を感じることが出来る。・体験型のフィールドワークを行うことが出来なかったことはとても残念だった。少人数で行ったとしても、密になってしまう状況は避けることが出来なかったと推測されるため、フィールドワークは実施しなくて正解であったと考えた。

2. with コロナの時代、この授業の実施方法などについて尋ねた。

・大学からの要請がなければできるだけ対面授業を行うようにすることを提案します。

・少人数でのフィールドワークを行うという前提で授業を組む。少ない人数であれば何とか今年もできたのではないかと思ったから。

・課題や資料だけでなく、動画があったらもっと充実した学習になるのではないかと思います。

・遠隔だけでは、質問がしづらかったり、コミュニケーションしづらかったりするので対面と遠隔を交互に行ってほしい。対面の際は感染症対策をしっかり行ってほしい。

・遠隔授業の場合であったら、スライドを使用して説明する場合は ZOOM や Teams を活用して、フィールドワークなどはその場所の撮影をしてその動画を見て気づいたことなどをレポート形式にして提出する形式にしたら良いと思います。フィールドワークを、少人数グループで行う。

Ⅳ. 次年度の改善点

以上のように、授業は概ね当初の目的を達した。しかし、従来の課題に加えて、ポストコロナの時代に更に工夫が必要である。前述の受講生からの意見を参加しながら改善策を考えていく。